

令和 7 年度第 1 回 静岡市図書館協議会会議録

1 日 時 令和 7 年 8 月 8 日(金)午前 10 時～12 時

2 場 所 静岡市立中央図書館 2 階 ホール

3 出席者 (委員) 豊田副会長、伊澤委員、加藤委員、清委員、宗野委員、千頭和委員、堀川委員、宮城島委員、森委員

(事務局) 西島教育局次長、山梨中央図書館長、伊藤中央図書館副館長兼管理係長、海野中央図書館サービス係長、高田御幸町図書館長、田島西奈図書館長、田中薫科図書館長、石川北部図書館長、佐藤南部図書館長、青島長田図書館長、鎌田清水中央図書館長、杉山清水興津図書館長、杉山蒲原図書館長、宮本中央図書館麻機分館主任主事、山田中央図書館美和分館主査、大橋中央図書館管理係主査、坂下中央図書館サービス係主査(再)、大橋同会計年度任用職員

4 欠席者 那珂会長、

5 傍聴者 4 人

6 議 題 (1) 令和 6 年度事業報告
(2) 令和 7 年度事業計画
(3) その他

7 会議内容

(1) 令和 6 年度事業報告

事務局(サービス係長) 令和6年度の事業報告と令和7年度の事業計画についてご報告します。

まず、令和6年度事業報告のうち、統計についてです。お手元の冊子『静岡市の図書館 令和7年度』の 30 ページをご覧ください。なお、こちらの冊子は、以降は『年報』と呼称します。

32 ページをご覧ください。上段の(4)の表は、全館の数値を合計した利用状況の推移です。全体として、入館者数は増加したものの、貸出者数と貸出点数において減少が見られました。

入館者数につきましては、令和5年度が162万人だったところ、令和6年度は173万6千人へと11万6千人、107%の増加となりました。内訳ですが、令和5年度に大規模改修により休館していた藁科図書館が令和6年4月下旬にリニューアルオープンし、5万9千人の増加、御幸町図書館が3万1千人、その他南部図書館、清水中央図書館等で計2万6千人の増となっています。中でも、御幸町図書館は開館20周年記念事業として、新規イベントや講座を多数開催したことが入館者増につながったと考えています。

次に、貸出者数と個人貸出点数につきましては、貸出者数が119万5千人から92万人、前年比77%と大きく減少しており、個人貸出点数につきましても、368万7千点から341万6千点となり、前年比93%減少しています。これらの減少は、影響数の算出ができないものの、システム変更により、これまでカウントしていた貸出延長分を、システム変更後は含まなくなったことが大きな要因と考えています。

しかしながら、コロナ禍以降のデジタル化の加速や生活様式の変化により、図書館の利用傾向に変化が生じていると実感しておりますので、今後も、従来の取り組みのブラッシュアップとともに、新たな取り組みを行うことにより入館者増等を図り、貸出につなげていくよう取り組んでまいります。

次に、35 ページ下段をご覧ください。電子図書館につきましては、昨年度の協議会で実施状況をご報告していますので、ここでは簡単にさせていただきます。

「総ログイン数」、「ログイン実人数」、「閲覧数」が前年度実績（ひと月分）と比較し増加の割合が多いのは、9月から市内小中学校と連携し、児童生徒に配布されているタブレットから電子図書の閲覧（同時利用が可能な閲覧のみ）を可能としたためです。以下学校連携サービスといいますが、総ログイン数のうち、学校連携サービスの割合は69%、ログイン実人数のうち、学校連携サービス利用者の割合は75%でした。

なお、「貸出者数」「貸出点数」「予約件数」は、学校連携サービス以外の通常サービスの利用数で、「閲覧」は学校連携と学校連携以外の両方のサービスの閲覧数です。

通常サービス（学校連携外サービス）につきましては、実績及び利用者アンケートをもとに、今後も利用周知に努めるとともに、利用者層を考慮した選書を行う等により利用増を図っていきます。

また、学校連携サービスについては、現在学校へのアンケートを行っているため、これを踏まえ、効果的な取り組みを検討していきます。

41 ページをご覧ください。図書館のサービス指標のうち、登録率は増加しました。これは、登録者数の増加と人口減少によるもので、登録者数は約6千人の増加となっています。一方、人口一人当たりの貸出点数は減少しています。これは、貸出点数の減少によるもので、その要因として、さきほどご説明したシステム変更に伴う貸出点数の減少もあるかと思いますが、貸出点数の改善に向けて、各館で取り組みを進めていく所存です。

最後に「その他のサービス」として、学校支援の報告をさせていただきます。年報46ページをご覧ください。

(3) 学校協力貸出サービスですが、このサービスは市内の小中学校を対象に、調べ学習用資料の貸出をするものです。令和6年度は、110校に対し、1万8千冊の貸出を行いました。テーマに沿った資料を、司書が選書し、複数冊提供できるところが図書館の強みとなります。また、学校への支援につきましては、47ページの(6) 市政出前講座・講師派遣におきましても、市内の高等学校に対し、ブックトークや読書回転寿司により、読書の楽しさを伝える取り組みを行いました。

このほか、46ページにもどっていただき、(4) 図書館見学、体験等の受け入れとして、図書館見学、調べ学習については131クラス、3千人に対し行うとともに、中高生の体験学習や大学生の実習、教員研修として、図書館サービスの体験研修を107人に行いました。

以上で令和6年度の統計についての報告を終わります。

次に、令和6年度に行った事業について報告します。

主要事業についてですが、年報6ページの令和6年4月以降をご覧ください。大きな事業としては、先ほど統計数値の説明の折にも触れましたが、藁科図書館の大規模改修工事が完了し、4月20日にリニューアルオープンいたしました。これにつきましては昨年度の協議会で報告をしております。

次に、御幸町図書館におきまして、開館20周年記念事業として年間を通してイベントや講座を開催しました。これにつきましては後程御幸町図書館長から報告します。

このほか、10月から移動図書館が清水のベイドリームに巡回をしております。

各館が行った事業の詳細につきましては、年報の51ページ以降をご覧ください。

事務局（御幸町図書館長） 御幸町図書館でございます。よろしくお願いいたします。

年報の表紙に掲載してありますが、昨年度、御幸町図書館は開館20周年の節目の年を迎えるにあたり、様々なジャンルの周年記念イベントを通して、利用者の皆様へ感謝を伝えるとともに、今後の利用促進の企画を実施いたしました。

年報 52 ページの中段をご覧ください。

イベントは記載のとおり、10件開催しました。そのうち7件は新規企画、(初)と記載してございます。講座は7件、そのうち2件が初開催、その他2件新規企画を展開いたしまして、1年間で76事業を開催し、2,947 人の方々にご参加いただきました。参加者数等は記載のとおりでございますが、資料1の各事業の開催状況の写真資料をご覧ください。

まず、左上、各イベントチラシ等の周知に使うため、御幸町図書館キャラクターの特別エンブレムを色違いで製作いたしました。

その下、市章のかわりに着ける「静岡市職員用名札」、広報周知は外部に向けてだけでなく、内部の市の職員にも行いたく、人事課を通して各課への名札着用依頼をして、あらためて御幸町図書館を知っていただきました。

その右側ですが、開館日の9月17日に、図書館公式「X」に、開館記念のぼり旗と外観の写真を載せて発信したところ、22,000 回以上閲覧され、めずらしく「プチバズリ」となりました。

「こめじるし」の報道実績につきましては、イベントの都度、報道機関様への情報発信をより積極的に行いました結果、各種媒体で取り上げていただきました。

①イベントですが、開催月の順番になっております。

「夏休みクイズラリー」は、静岡市の歴史文化のまちづくりの新たな拠点として、御幸町図書館近隣にオープンした静岡市歴史博物館との初めての連携コラボイベントでございます。両館で行う意義を出すために、クイズに答えるだけでなく、それぞれの問題について、図書館に行って実際に図書資料を使ったり、博物館に行って本物の展示を観覧しないと解答できない工夫をして、全問コンプリートしたら、写真にございます両館からのノベルティセットをプレゼントしました。

アンケート結果から、御幸町図書館に初めて来館した方は53%(68人)、歴史博物館に初めて来館した方は42%(54人)、両館とも初めて来館した方は31%(41人)。また、市内市外だけでなく、県外の香川県、兵庫県、千葉県、東京都などからも参加していただきました。

感想は、「図書館で本を探す練習ができた」「自分で調べて達成感があった」「御幸町図書館にも歴史博物館にも行けてよかった」「友達と協力できたからとっても楽しかった」「いろいろな問題があってわくわくしたから」「夏休みの思い出になった」など、ありがたい解答の中、「あまり楽しくない」方の回答理由は「姉が指導したから…」でした。

1枚めくっていただき、2ページをお願いします。

YA世代向け「ガチャ本」。こちらは中身がわからないように司書お手製のブックカバーで包み、ワクワク感を演出して1か月間開催したイベントです。報道記者さんが図書館「X」で知り、取材に来ていただいたパターンでした。

次に中段の「多言語フェス」です。開館当初から開催しているピクチャーブックリーディングをブラッシュアップした「多言語フェス(御幸町図書館の特色の外国語本の読み語りと御幸町図書館では初めてのライブラリーコンサート)」を2部制として、初開催いたしました。

1 部は、開館した20年前に生まれた現在大学生の常葉大学外国語学部の学生が読み手となり、多言語（英語・ポルトガル語）でお勧め本の魅力を発信する立場で参加していただき、地域の多文化共生及び文化交流ができる機会として企画しました。

2 部は、外国をイメージした選曲で、市民サークルによるマンドリンアンサンブルと常葉大学短期大学部音楽科の学生による木管五重奏の演奏を行いました。御幸町図書館での演奏会は、初めてでチャレンジ企画でしたが、楽器説明や曲の解説も織り交ぜていただき、興味や知識も深まる機会にもなり、生演奏の音が心地よく、本に囲まれた環境での「言葉」と「音楽」が醸し出す、心豊かな時間となりました。

その下、11月開催の「歴史博物館で読み聞かせ」はコラボしたことにより、次のページの1月の歴史博物館開館2周年記念イベントへの出演依頼に繋がりました。

図書館での読み聞かせとは大きく違い、広いホールや、会場横の遺構の高い位置の通路から見学する方、声量の違い、司書にとっても新しい緊張感のある体験によりスキルアップに繋がったことは間違いありません。

歴史博物館の外に立って、両館スタッフが一緒にイベント告知を行ったこともあり、写真のように計153人もの方にご参加いただき、新たに絵本の解説や裏話を入れてみたことについてもご好評をいただきました。

②の講座、歴史博物館学芸員による「おまちの歴史を知る講座」も含めたコラボイベントにより、地域の方々に静岡市の歴史に興味と関心を持っていただき、両館利用促進に繋げていくこと、また、図書館の役割の一つでもある郷土資料の提供の観点から歴史博物館企画展の特別展示を行うなど、連携事業の実現により、今年度事業への円滑な発展と今後の連携拡充の体制が構築できました。

最後の4ページをお願いします。

「ハサミで作るリアルな花と昆虫」は、以前、協議会でシニア向けのイベントが少ないというご意見をいただきましたので、シニア向けに手先を使い、難易度を選択できる形で開催いたしました。参加年齢は、60代が40%(6人)、80代が33%(5人)、70代と50代と続きました。「とても勉強になり今度本を借りたい」「高齢の母が他の方と交流する場になり良かった」「普段しないことを体験できて良かった」「初めての体験でとても面白かった」などの感想をいただきました。

中段の「ライフキャリア・レジリエンス」は、就労移行支援事業所のリタリコワークスと連携した「医と健康」講座を開催しました。講座は単なる座学だけでなく、ワークショップ形式で参加者同士が日頃のモヤモヤについて話し合ったり、講師や司書のお勧め本

の展示紹介をしたりして、最後に、心が軽くなる絵本の読み聞かせなどを取り入れました。

御幸町図書館の特色の多言語、医と健康、ビジネスのほか、郷土などのジャンルごと、また、児童向け、YA 向け、一般向け、シニア向けなど、更には、学校や他施設との連携による可能性を試しながら展開してきましたが、今年度も、御幸町図書館らしい新規事業に積極的にチャレンジしているところでございます。

御幸町図書館の主な事業報告は以上です。

(2)令和 7 年度事業計画

事務局（サービス係長） 続きまして、令和7年度事業計画を説明いたします。年報58ページをご覧ください。各館ごとの事業予定を記載しています。

各館ごとに地域性や利用者層を考慮し、記載のとおり、各種イベント、講座、お話を実施する予定です。内容としては、継続して実施しているこどもへの読み聞かせなどこどもの読書活動を推進するための事業や、地域に関する講座に加え、利用者拡大のため、新たな事業を実施する予定です。

例えば、藁科図書館、蒲原図書館は、成人向け朗読会の開催や高齢者向けサービスの強化を、北部図書館は併設施設の教育支援センターと連携し、学校司書への研修の実施等を行います。また、南部図書館は福祉サービスの一環として、「南部図書館 福祉サービスガイド」を発行しました。

全体としましては、本年7月から8月にかけて、館内でおしゃべり OK の日とすることで、図書館を気軽に利用してもらおうというイベントを全館で開催しました。

この後は、藁科図書館、蒲原図書館、北部図書館、南部図書館、中央図書館から報告します。

事務局（藁科図書館長） 藁科図書館です。よろしくお願いします。

藁科図書館では、今年度から新たに地域高齢者へ向けての市政出前講座の実施を始めました。服織、藁科地域は高齢者が多く、以前は図書館を頻繁に利用してくださっていた方も最近では図書館まで来るのが大変、生涯学習センターの講座やサークルにも参加できなくなってきた、という声を聞くようにもなりました。そのような方にも今までどおり読書を楽しんでいただきたい、それなら図書館に来てくださるのを待つだけではなく、私たちが地域に出ましようという考えのもと、服織、藁科地域で開催されているS型デイサービスや、自治会が開催している同様の集まりで、大人向けのおはなし会を開催させていただくことになりました。

S型デイサービスを開催している責任者の方にアプローチして、今年度は現時点で4か所から依頼をいただくことができています。会場に来ている方は「高齢者」といっても年代は様々で、例えば90代後半の方と80代前半の方では15歳の差があるため、高齢者と一括りにしてイメージで本を選ばないよう心掛けました。落語を題材にしたものや昔話、民話などを中心に、読後感が良いもの、くすっと笑えるような話がやはり楽しんでいただけたと感じています。

これからの予定としては、依頼先を増やすこと、読み聞かせだけではなく、図書館で人気の認知予防にもなる本を使ったクイズや音読、音楽や昔の映像資料を流すなど、心の健康にも一役買えるようなプログラムを作り上げていきたいと考えています。

事務局（蒲原図書館長） 続きまして、蒲原図書館の事業についてご説明します。資料 2-1の②でございます。年報 43 ページ右下の方に蒲原図書館には団体貸出の登録団体が19団体あります。そのうち7番と10番が高齢者施設の団体です。毎年1回、団体の登録の更新手続きをしていますが、確認をしてみたところ、数年この高齢者施設の利用が全くないという状況が把握できました。

そこで、高齢者施設に利用されていないが、どのような状況なのか伺ったところ、やはり、スタッフの時間がどうしても割けないという話や、本を借りに行ってもどんなものを借りたらいいかわからないというような悩みを把握できた次第でございます。そうしたことから図書館として何かできないかと考え、本のデリバリーのサービスを始めてみようということになりました。

選書については司書にスキルがあるので、高齢者に合うような本を選んで、定期的に持っていくという話を施設の方としました。高齢者の生きがいや健康、生涯にわたる学びを助けるという意味で、読書というのは非常に大きな役割を担っているのではないかと思います、始めました。

実施方法は、図書館員が30冊程度本を選書し、貸出処理をした上で、公用車でこちらの2施設に本を持っていきます。第1回目は7月に実施しました。

施設からは、「喜んでいるよ」というような声をいただいておりますが、高齢者ごとに価値観というか趣味や興味が違いますので、そういったものに合うように、今後は施設に一つボックスを置かせてもらい、「どんなものが読みたい」という意見を聞けるように、リクエストカードみたいなものを用意して、それを書いてボックスに入れてもらいます。3ヶ月サイクルで考えていますので、今度は10月に行きますが、その時にそういった声を参考にして、次の仕掛けにつなげていくというようなことを考えております。以上です。

事務局（北部図書館長） 北部図書館の今年度の新規の年次計画についてご報告します。北部図書館は教育センターと併設している複合施設です。そのため、教職員や学校司書が研修に参加するために施設に来られます。その利便性を活用し、新規に次の二つの事業を企画し、それぞれ教育センターの研修第2係と学校図書館支援室とタッグを組みました。

一つ目は、初任者研修会の教員に対し、図書館の資料の配架や活用方法などを伝える「図書館ツアー講座」と「ブックコートフィルム貼り講座」です。図書館ツアー講座の目的は、教員の皆様に図書館資料に関する知識を習得し、授業のやり方や課題解決に役立つ資料が図書館にあることを知ってもらうことです。北部図書館は教育支援資料の収集に力を入れておりますので、教員の方々がスキルアップのために資料を活用していただければと思っています。また、図書館に生徒の悩みを解決するための資料があることや、さらには教員に図書館資料が授業に役立つことを伝えることで、今後の協力貸出の活用にも反映していくものと考えています。ブックコートフィルム貼りは、本の寿命をのばすために、本の背表紙にフィルムを貼っていく作業です。教員が将来学校図書館の担当になった場合に備え、スキルの提供の一つと考えて実施します。図書館ツアーは7月4日に開催し、12名の参加をいただきました。ブックコートフィルム貼り講座は12月4日に開催予定です。

二つ目は、9月5日に行われる学校司書研修会のグループ協議の一つに北部図書館ツアーとブックコートフィルム貼りの講座を入れてもらいました。さきほど説明があったように、図書館は、授業に活用できる必要な資料を学校へ提供する協力貸出を行っており、令和6年度は約1万8千冊を貸出しております。これだけの実績をだすには、教員と学校司書の協力がなくては成り立ちません。そのため、初めて学校司書になった方々に、協力貸出の使い方や図書館資料の知識と技術を支援します。技術面として、ブックコートフィルム貼りの機会を提供します。

教員と学校司書と図書館の三者が一体になって、図書館の資料の有効活用をすることにより、こどもたちへの教育支援の一環を担えるように今後も尽力していく所存です。

これ以外に、学生向けに学校の勉強を夏休みにサポートできるセットを作りました。3冊1セットです。お手元の資料2-1の③をご覧ください。イベント名はほくじら印「教科を強化」です。対象は小学生から高校生までと幅広く、算数から英語まで多種多様なものをそろえました。風変わりなところで「勉強法セット」なども作ってみました。目標30セットの予定でしたが、7月18日から開始し、8月6日現在23セット貸出しました。

事務局（南部図書館長） 年報61ページと資料2の②をご覧ください。南部図書館は2階に「地域福祉共生センターみなくる」があり、福祉サービスの拠点として福祉サービスの拡充に努めて参りました。今年度は各種事業で読書バリアフリーの推進をしています。資料①「認

知症サポーター養成講座」の継続実施、今年度も6月25日に職員向け「認知症サポーター養成講座」を開催いたしました。全館の新職員等17名が参加し、令和5年以降延べ69名参加しています。南部図書館の職員全員が「認知症サポーター」となり、認知症に関する知識や適切な対応方法を学び、日頃の窓口対応に活かしています。講師は地域の大里高松包括支援センターの方をお迎えし、地域との連携を図っております。

次に『南部図書館 福祉サービスガイド』の作成、発行です。6月に発行したばかりで、館内の福祉サービスをわかりやすい日本語で説明し、作成しました。ウェブサイトでも常時閲覧可能となっています。館内では「認知症にやさしい図書館のオレンジの棚」に配布用を設置し、利用者に手に取ってご覧いただいているほか、「大里高松地域包括支援センター」職員が高齢者宅訪問時に持参し、介護予防の観点から図書館利用をPRしていただいております、活用の幅が広がっています。

次に「図書館ボランティア体験を通したひきこもり自立支援事業」への協力を開始しています。こちらは施設2階にあります「静岡市ひきこもり地域支援センターDanDan しずおか」の職員が図書館ボランティアに登録し、当事者をサポートしながら、図書館資料の書架への配架や整理を行うことで、自立支援へとつなげるという「DanDan しずおか」の事業に協力しております。令和6年に施行された「孤独・孤立対策推進法」の「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」「相互に支え合い、人と人とのつながりが生まれる社会」を目指す目的があります。図書館が安心・安全な居場所のひとつとなり、自立へとつながるきっかけとなる場所、成長を実感できる場所となっています。現在のところ延べ3名が活動しており、就労支援のきっかけになったり、外へ出向くきっかけとなったというお声をいただいております、今後も活動を継続していきます。

④しずおかし電子図書館をつかって「みんな de 音読タイム」の開始です。昨日、8月7日に「ぷらっと図書館 in 南部図書館」を開催しました。南部ひびきの会の協力のもと、スクリーンと各自のスマホでしずおかし電子図書館内「青空文庫」の作品を検索し、画面を表示し、紙でも配布したうえで、参加者全員で短い作品を音読しました。昨日は新美南吉の「蟹のしょうばい」という面白い話を音読しました。図書館利用の促進と健康増進を兼ねた内容で、14名の参加で好評を得ました。今後も何回かやってほしいというお声をいただきました。今後の読書バリアフリーに関する新規事業も計画しております。

⑤ピクトグラムを使用した、誰にでもわかりやすい「書架サイン」の作成です。南部図書館は地域に外国の方も多数おり、図書館用品メーカー作成の無料でダウンロードできるものを使って、絵でわかるサインを作成し、書架に貼る予定です。

それから、オレンジの棚に隣接した「いきいきシニアコーナー」の新設です。今まで南部図書館では福祉に関してはりんごの棚、オレンジの棚、子育て応援すくすくコーナーなど毎年新しいコーナーを新設してきました。オレンジの棚の利用が大変好評なので、その

隣にシニア向けのコーナーを作ることで、貸出増を目指しております。

このほか秋に市主催の認知症イベントに出展し、図書館をPRする予定であります。また駿河区保護司会が2階にありまして、先日「社会を明るくする運動」期間に図書を展示しました。7月1日に開催された式典で、図書館の利用をPRし、街頭キャンペーンの啓発活動へも参加協力しております。さらに駿河区役所等に出向き、新規利用者増へ向け、「南部図書館へGO」と名したチラシを作成し、南部図書館の近隣にある学校等に配布し、新しい利用者の開拓に努める予定であります。

以上が南部図書館の今年度の予定となっております。

事務局（サービス係長） 資料3 図書館イベント「ぶらっと図書館」の実施について報告いたします。

これは利用者の増加につなげる取り組みで、すぐにできることをやってみようということで、本年度に入ってから企画し、全館で実施しました。

目的は、これまで静かに利用していただいた図書館を、ある一定の日、またはスペースを区切っておしゃべりしてもよい図書館にすることで、静かにしていることが苦手なお子さんなどの利用者層に対し、気兼ねなく図書館を利用していただく機会を設けるものです。

内容は、「会話可」「飲み物可」というコンセプトを全館で共有し、朗読会やお話会、音楽会、または館内でBGMを流す等の音を伴うイベントを意識しながら、実施しました。各館の実施内容につきましては、資料3別紙の両面をご覧ください。

次に中央図書館の実施状況について報告をします。来館者数は1,518人で、昨年度の7月の日曜日の平均来館者数と比較すると200人程度、117%の増加となりました。

中央図書館では、このホールのような仕切られた部屋ではなく、書架で音を伴うイベントをやりたいと考え、弦楽アンサンブルと大人の朗読会を城北公園側の1階書架で行いました。また、子ども向けお話会につきましては、音を楽しむ絵本に、電子ピアノで効果音を加える試みをしました。このイベント参加者数は記載のとおりですが、館内の他の利用者の皆さんにも楽しんでもらえたのではないかと考えております。

また実施に当たっては、普段図書館をご利用いただく方に当イベントについて御理解いただけるよう、事前に館内が賑やかになることを館内掲示やSNSにより周知に努めました。スペースの問題もありますが、静かに過ごせる場所を用意した館もあります。

次にイベントの反響について、裏面の全館分のアンケート結果を報告いたします。なお昨日行った2館分は含まれておりませんので、暫定の数値となります。アンケートは、各館内にアンケートを掲示し、シールで回答をいただく方法と、記述式で回答をいただく方法の2つを併用しました。

まず、アのぶらっと図書館の感想ですが、「とてもよかった」「よかった」と回答した利

用者がシール式で98.8%、記述式でも48人中47人で、想定以上にイベントを受け入れていただけたと感じています。

次に、「今後、図書館内に会話可能な日、時間、場所ができることについて」という問いには、「とても良い 定期的に行ってほしい」「よい 時々は、又は場所を区切れば行ってもよい」という方が86.1%、「あまりよくない 特別なイベント以外では静寂がよい」という方が6.9%、「よくない いつも、どこでも静寂がよい」という方が6.9%でした。

最後に課題及び今後の対応ですが、図書館内に会話可能な日、時間、場所ができることについて好意的な回答を8割以上いただけたということは、想定以上でした。一方で反対される利用者の方も1割以上いらっしゃることから、今後実施する場合においても事前周知やサイレントルームの設置等配慮していく必要があると思っています。また、このほか新たな利用者を呼び込むための周知方法についてや、各館ごとに利用者数や施設の状況を踏まえた見直しも必要であると考えられます。今後ですが、こういったアンケート結果等を踏まえ、各館の実施状況も共有し、今後の開催について検討していきます。

以上で資料3のぷらっと図書館の実施報告とさせていただきます。合わせて令和7年度の事業計画の説明を終わります。

豊田副会長 ただいまの事業報告と事業計画の説明に対して、皆様からのご意見、ご質問などお願いします。

宗野委員 去年から始まった電子の図書について、1年以上経って今どんな感じなのかということをお個人的に聞いてみたいと思うのですが、数字が出ていますけど、この2、3ヶ月停滞しているのか、新たにまた増えているのかどんな感じなのかなど。自分自身が最近全然見なくなってしまったので、みんなどうなのかなど個人的に聞きたいです。

事務局（サービス係長） 令和7年度については手元に資料がなくて申し訳ありませんが、利用数は大きくは向上していないと思います。このため、資料の充実に注力していくとともに、ホームページ上の電子書籍のレイアウトをこまめに変えることで貸出につながるよう工夫をしています。それから新たに電子図書館の利用者を増やす取り組みとして、説明会というか講座のようなものも、開催していきたいと考えています。

豊田副会長 今の電子書籍について何かありますか。

宮城島委員 私は西奈南小学校の校長をしていますが、子どもたちを見ていると、1人1台端末をどの授業も日常的に当たり前のように使っています。授業を個別多様性に対応するとい

うことで、みんな一緒にの事をやっているのではなくてそれぞれがやっていたり、ちょっとした空いた時間を自分で使ったりしていますが、電子書籍を結構読んでいます。

何をやっているのかなって覗くと、まず外見がおしゃれですね。タブレットを見ている子に「これよく使っているの」って話しかけたんですね。その子がたまたまなのかもしれないですけど、「あまり本読むのは好きじゃなかった。」で「なんで」と聞いたら、「探しに行くのが面倒くさい。」探しに行くのも本当は楽しみでもあるけれど、子どもにとって探しに行くのが面倒くさい。「これがあるおかげで、いつでも読めるからすごくいいんだよ。」ということを行っています。他の複数人からも聞いていたので、子どもたちにとってはハードルが一気に下がって、子どもたちの入門としては、電子書籍がすごく役立っているなあと感じています。

明らかに、今まで本を読むのが好きでなかった子、あまり興味なかった子が入り込んでいるなってことを実感しているのでお話をさせていただきました。

豊田副会長 電子書籍の関連で私からも質問させていただきますけれども、先ほどの委員さんのご質問の中で、ここ何ヶ月か最近の利用は増えているのか、あるいは停滞しているのか質問がありましたけれど、少なくとも学校連携の利用とそれ以外の利用は分けて考えないといけないでしょうし、それ以外の利用についても、もしかすると分けて考えているところがあるのかもしれないですけども、利用者層をきめ細かく見たときに、どんな感じなのだろうかを知りたいので、そこを教えていただけませんか。

事務局（サービス係長） 学校利用以外のところは、前回のときもお話したかもしれませんが、利用者層としては、30代、40代から60代の方が多くご利用いただいています。元々は図書館に行きにくい方を想定していましたので、年齢層としましては子育て世代を想定していましたが、それよりも少し上の年代の方も利用されていることがわかりましたので、その年代を意識した選書をしています。

学校利用につきましては、今は小学生の利用が多いため、小学生向けの読み物や調べ物にもご利用いただけるような図鑑等を多く用意しております。なお、電子図書ですと、画面を拡大して見ることができるため、お子さん以外にも高齢者にも向いているのかなとわかったところです。

豊田副会長 異なる利用者層向けのきめ細かいPRが必要だろうと思います。先ほど説明会もやろうかという話がありましたが、その辺のところは何か今考えていらっしゃいますか。

事務局（サービス係長） 課題として感じているところは、児童向けの周知のツールはありますが、成

人向けの周知と図書館を利用していない方への周知が難しいと感じています。

市のホームページやX、市の広報のほか、先日、市の公式LINEによる周知を行いました
たが、他にも何かないか、ご意見をいただけるとありがたいところです。

豊田副会長 今の話は多分電子書籍に限らずですね。よく指摘されるのは、例えばSNSのいろいろなものがあって、世代とか、要するに利用者のそれぞれの特性があるので、それに合わせて使うメディアも考えていく必要があるし、メディアに流すのも考えていく必要があり、口コミも重要になってくるので、口コミにのりやすいようなものをどういう経路で流していくかというところは必要かと思います。メディアに流していく文章も対象ごとに変えていかないとはいけませんが、生成AIなどを使うと、かなりきめ細かく対象別の文章に変えていくことができるので、もちろん作戦を立てる段階でも使えるんですけど、今までのアンケート結果なんかを分析しながら、そういうことを工夫していくのも発信の仕方としてはあると思います。

宗野委員 基本的に定期を持ったことがない、歩いたり、自転車しかない人間が言うのもおかしいですが、バスとか電車で読んだりするのかなと思ったので、バスや静岡駅のところに「電子図書を簡単にあなたのスマホで見られますよ」というQRコード入りのチラシなんかを置くと、面白そうかなと思って、QRコードを読んでアクセスする人がひょっとしたらいるんじゃないかなと思います。通勤通学の間に電車で何もやることがなかったら、ちょっとやってみようかなと、読む読まないにしてもとりあえずアクセスしてくれるんじゃないかなと思いました。駅の構内や電車の中はお金がかかるんですけど、とりあえず、そういう方法があるかなと思います。

事務局（サービス係長） ありがとうございます。

清委員 南部図書館の青空文庫の朗読は面白いなあと思いました。こういうのも馴染みのない方には良い取り組みだと思います。自分では思いつかなかったけど、良かったです。

事務局（南部図書館長） 昨日「ぷらっと図書館」のイベントとして初めて実施しました。図書館の子どもコーナーにおはなしコーナーがありまして、スクリーンが降りるようになっています。図書館では通常は、音を流せない、お話できない。けれどもそれがOKな日ということで、映画上映と音読をやってみようということになりました。音読に関しては、図書館には「ひびきの会」という、音訳ボランティアを長くお願いしているプロがいますので、音読のちょっとしたコツをやるつもりで音読だけの話をしていたのですが、せっかくなら「しずおかし電子

図書館」の画面をスクリーンに大きく映したらどうかということになりました。実際のスマホは画面が小さいので、それを大きくしたらどうかというところで、電子図書館にログインするように二次元コードを載せた資料を作りまして、説明を順番にしました。各自が自分のスマホを操作しながら、まずは青空文庫のページにたどり着くまでを一緒にやりました。最初は皆さんがよくご存知の「雨ニモマケズ」を読んで、「北原白秋のあいうえおの歌」で発声練習を行い、最後に「蟹のしょうばい」という新美南吉の作品、これはカニの床屋がタコやたぬきの頭を変えるというちょっとナンセンスなお話ですけど、楽しく読ませていただいて、やはり自分で黙読をしたり、一人で音読するよりは、すごく楽しいイベントになったというのが私の感想です。

青空文庫はなかなか開かない方がいらっしゃるという話や、青空文庫の場所までたどり着かないと、こうやれば使えますよと案内しただけでは多分使わないのではという話もあって、今回やってみました。南部図書館の2階みなくてやっている「声から元気に」という発声や音読をやる講座がありまして、関心が高い方が多いのかもしれませんが、電子図書館プラス作品を読む、やはりその図書館の強みは本がたくさんあるということなので、その作品をなかなか自分で選べないという方もいらっしゃるっていうところで、せっかくスクリーンがあるならやろうと。とても良い企画だったと感じており、継続していけたらなと思っています。

豊田副会長 この事業は非常に面白い事業というか、攻めているなあという感じがあります。こちらの説明には図書館利用促進と健康増進と書いてありますけれども、情報リテラシーの向上というところにダイレクトに結びついていますね。この事業などについて何か他の委員からご意見ありますか。

一言付け加えさせていただくと、先ほど海野主幹から電子図書館説明会というお話がありましたけれども、この事業は説明会ではないけれど、これだったら多分説明会だと来ないような人が楽しく参加して、しかも説明会と変わらない、あるいはそれ以上の効果がある。なんかそんな感じがしたので、さっきPRをどういうふうにという話がありましたけれど、これこそ最高のPRのやり方の一つだと思うので、他の図書館でも同じような形の展開が可能かなと思います。

ではそれ以外で委員の皆さんいかがでしょうか。

堀川委員 去年の2月に名古屋市の鶴舞図書館に視察に行かせていただいて、その時名古屋の年報をいただいたんですけども、その中で名古屋には20館の分館があって、各館ごとにいろんな取り組みや運営目標などが書かれていました。前回の会議で宗野委員が発言されたように、各館の特色作りみたいなものが必要ではないかと思うので、静岡市の

図書館でも、年報自体も各館で作るような各館が一言二言自分たちの図書館をPRするようなそういった内容を年報に盛り込んではどうかと思っていました。

豊田副会長 今回の点について何かありますか。

事務局（サービス係長） 各館ごとの地域性とか利用層を掴みながら事業を今展開しているところを年報にも反映させた方がいいんじゃないかというようなご意見でしょうか。

堀川委員 各館でやっている事業はこれを見ればわかるんだけど、各館がどんな目標とか、どんな特色のある図書館にしていきたいよ、みたいなものを、2行でも3行でも、名古屋の図書館年報には3、4行くらい書いてあるんですけども、そういったものを載せて、各館の特色作りをこの中で表現していったらいいかと思います。

事務局（サービス係長） 検討させていただきます。

豊田副会長 先ほどの南部図書館であれば、福祉サービスの拡充とバリアフリーの推進というふうな資料2の一番上に書かれていますけれども、この数年の事業の展開を見ると、ハンディキャップのある人に向けての福祉サービスを充実させていく方向性が非常にはっきり出ていると思いますが、それは館長さんが変わると違う方向へ行くのがいいのか、そうじゃなくて館としてこれからもここはこういう特徴を持った館だから、そういうふうないった方がいいというふう考えるのか、そのあたりのところは多分、図書館でも整理していただいた方がいいことなのか、要するに、どういう戦略をもつのかという話になりますが、そんな感じはしますね。そのあたりどうですかね。

事務局（サービス係長） そうですね。各館では考えているものはあるかと思いますが、今そういった形では外へは出していないので、話をしていきたいと思います。

豊田副会長 御幸町図書館は明確にありますが、それ以外の図書館は今まで周辺地域に対するサービスはもちろんやっていたわけけれども、特色を持たせてというようなことを戦略的に積み重ねるという感じではなかったと思うんですね。北部は教育センターとそういう色が少し出ていますが、その辺はプラスとマイナスがあるんですけど、考えたほうがいいような気がします。

私から一つ質問をさせていただきますが、ぷらっと図書館のアンケート結果は非常に注目すべき内容だと思っております。この図書館内に対話可能な日、時間、場所ができ

ることについて、とても良いと良いを合わせると86%って、ほとんどの人がそう思っていると言ってもいいのかなという状況なんです。そうすると多分図書館の音に対するあり方がかなり変わっていくという方向性も考えられると思います。全国的なトレンドでいうと、図書館を対話の場にしていこうとか、賑わいを作っていこうとか、その中で静かにしたい人のための場は別に確保しておくとか、共存できるようにするんだけど、メインは対話とか賑わいといった方向に移っていく傾向がかなり強いんですね。それはいろんな理由があるんですけども、そのあたりについては、今の話でサードプレイスの考え方に繋がってるんですけど、サードプレイスと言うと、なんとなくみんな居心地がいいというようなことが考えられるんですけど、居心地がいいの中身はくつろげるということと同時に、楽しく仲間と会話できるというのが必ず中に入っているんで、そういう意味では図書館もサードプレイスにしようと言われてるんですけども、そういうようなことが多くの図書館で目指されるという流れがあるんですね。

これは非常に面白い結果だと思うんですが、既に課題および今後の対応でこう書かれてはいることではあるんですけど、そのあたりのところはどうなのかなと思いました。

事務局（サービス係長） この取り組みは、利用者様から苦情をいただくだろうなと思いつつも、まずやってみようというところから始めました。本を静かに読んで過ごすというのは、利用者、図書館双方にとって、そういう場であるとやっていたところですが、例えば子どもさんが本を選ぶときに声を出してはいけないのかとか、話しながら学習してはいけないのかとか、静かでないことも図書館の役割としてあるのかなと思います。

そこで今回こういったイベントを開催しましたが、結果としては思った以上に反応が良くて驚きました。日を定めて、あるいは時間を区切っておしゃべりしてもいい場を提供することで、これまで遠慮して、声を出しちゃいけないから、ちょっと控えていたとか行きづらいつつとか、そういうことを考えている方たちにも来ていただこうと話をしたところです。今後は、アンケートを最終集計して、実際どうだったのかを全館で共有しながら、どう展開していくのか検討していきます。

豊田副会長 今のところで委員の皆さんご色々意見あると思いますのでどうでしょうか。

宗野委員 この企画はすごくいいなあと考えていて、特にここに書いてあるように、夏休み期間中にやっているのはやっぱりお子さんがたくさん来て、僕らみたいな年寄りが何回も行くよりも若い子たちが図書館に親しんでもらうほうがいいので、8月にたくさんやって、図書館に行くのが習慣づいたらいいなと思うので、夏休みにこういう企画をやる方はすごく大変だと思いますが、何回もやってほしいと思います。

豊田副会長 全国にもいろんな事例がありますので、私もご紹介できると思います。またそういう情報を使っていたいただければと思います。

それでは最初の議題につきましてよろしいでしょうか。もし何かありましたら最後にご意見をいただきたいと思います。ではその他の資料4の登録率の統計についてご説明お願いいたします。

事務局（サービス係担当） 委員の方から、登録者について知りたいとご依頼がありましたので、ご説明します。①登録率の推移 ②年代別の登録率の推移 ③各館のサービスエリアの人口に対する登録者の割合の推移 以上3点です。

最初に登録者の考え方ですが、静岡市では登録の有効期限を4年と定めています。有効期限日を過ぎると、登録者から除外され、更新すれば登録者として復活します。

①登録率の推移は中央図書館美和分館が開館した平成21年度から令和6年度の統計です。平成20年度に麻機分館が開館し、翌21年9月に美和分館が開館したため、21年度から22年度は登録率が上がっていますが、それ以降は下がっています。

次に②年代別登録率の推移ですが、過去の統計がないため、昨年度の年代別登録率を出しました。10代までは5歳刻みで、20代以降は10歳刻みで集計してあります。

最後に③各館のサービスエリアの人口に対する登録者の割合の推移ですが、町ごとの登録者数の統計が出ないため、ご覧の表をご提示します。各館のサービスエリアの人口は表のとおりですが、各館のサービスエリアがどこであるかは図書館の中で定めたものがないので、仮のものであることをご承知おきください。各館の登録者数をその館のサービスエリアの人口で割って、登録率を出しました。これを見ると、御幸町が高いですが、これはサービスエリア以外の方が御幸町で登録しているためです。反対に清水中央が低いのは、サービスエリアが広くて人口が多いためです。サービスエリアの広さや人口密度が影響しますので、各館の登録率を比較するというより、推移に着目することが大事だと考えております。

今まで市全体の登録率しか出していませんでしたが、今後は年齢別や地域別等細かい分析をして、業務の参考にしていきたいと考えております。

堀川委員 私がお願いしてやっていただきましたが、これを作るのに大変だっただろうということは想像しておりますので、そのことに対して感謝します。

全体的に見て22年、23年くらいがピークで、だんだん下がっているという現象と、それから令和6年昨年に上がったというのが、先ほど言ったように電子図書の関係で新たに登録者数が増えたというようなお話がありましたが、それとは別に意外と北部が高い

など思ったのはやっぱりそのサービス人口としての割当が少ないのかなと思うのですが、5人に1人の人が図書館に登録している印象を受けるので、これが高いのか低いのかというのは私もよくわからないし、他の図書館と比べてみたいということになります。また今おっしゃったように、今後分析をしてより多くの人が利用できるようなことが報告に繋がっていけばと思います。

豊田副会長 図書館としてこの情報をどのように活かしていくのか、お考えがあるのでしょうか。

事務局（サービス係長） 登録率を年代別で見る等により、登録や貸出、イベントの周知に使えるよう分析していきたいと思っています。

清委員 これを見ても御幸町図書館はすごく登録率も高いし重要だなあとと思いますが、会の方で話をしたときも、御幸町図書館はこれから高齢化してくると、バス1本で行けるという利点があって、仕事して行きにくい方も、仕事を終わってから行けるとか、仕事中にちょっと寄れるとかいう便利なところがあるので、ぜひこれも良い特徴として続けていってほしいと思います。

事務局（御幸町図書館長） 交通の便が良いのは御幸町図書館の特色の一つでもあります。遡りますと、静岡市役所の3階に追手町図書館がありまして、それが御幸町図書館という現在の形に進化しております。今年度21年目になりますが、本当に立地が良いということ、逆に駐車場がないというデメリットもありますが、今委員さんがおっしゃったように、市外の方もたくさんいらっしゃっていますし、先ほど説明にもございました通勤や通学で来館される方が多いことは、肌で感じています。また電子図書館が始まったことにより、例えばカードを紛失してしまった、再交付すると100円かかりますが、それよりもスマホでの登録は無料なので、そちらの案内もあわせて始めておりますので、そういったことも含めまして、登録の推進をしていきたいと改めて思います。

豊田副会長 それでは次の議題に移りたいと思います。その他の資料5図書館サービスビジョンについてよろしくお願いいたします。

事務局（副館長） 図書館サービスビジョンについて報告します。

令和6年、新型コロナが5類に移行となり、市民生活は新型コロナ流行前に戻りつつありますが、図書館の利用者は徐々に回復してきているものの、令和元年度の219万人

に比べ174万人弱と以前の水準まで戻ってはいません。コロナ禍を境に日常生活の中でDX化が進んだことや、生活様式が変わったことが理由として考えられます。

また、静岡市は人口減少が著しく進んでおり、令和7年3月には67万人になりました。ここ1年間で約5千人減少しています。現在の市民ニーズに合った図書館サービスを全12館で展開し、利用者満足度を上げるとともに、新たな利用者を獲得するためには、200名を超える図書館職員全員が共通認識を持つ必要があるため、令和6年度後半から月1〜2回、検討メンバーの職員が集まり、別紙のとおりサービスビジョンを作成しました。

検討会では、課題を解決するための考え方と方向性を4点に整理しました。サードプレイスとしての図書館、知識の拠点としての図書館、あらゆる人びとの暮らしや生きがいに寄り添う図書館、知性、感性磨きに役立ち、人々が交流できる図書館です。

それらの課題解決に向けた取り組みですが、新規事業としてはゾーニングの実施、デジタルアーカイブ化、郷土関連一次資料の収集等を、拡充事業としては電子図書館、福祉サービス、移動図書館、パスファインダー作成等を、継続事業としては計画的な施設改修、修繕の実施、出前講座、職場体験を実施していく予定です。

なお、すでに取り組みを始めている事業は、資料の1ページ目からになります。資料には主なものだけを掲載しております。今回はその中からいくつかご紹介します。

ゾーニングの実施については、先ほど報告しましたぷらっと図書館開催時に全12館で空間的なゾーニングを試行しました。

次に計画的な施設改修、修繕の実施ですが、今年度は、総額で5千万円を超える南部図書館の屋上防水と外壁改修を予定しています。開館しながら修繕を行う予定です。

パスファインダーの作成については、御幸町図書館で作成した医療用パスファインダーの1部を3・4ページに参考として添付しましたが、このような探し方案内を他の分野でも作成していきます。

資料の1ページに戻ります。電子図書館の電子書籍は1,525点から開始しましたが、令和7年3月には2,711点となっています。資料5ページにありますが、読書バリアフリーを進めるための事業の一環で、薬科図書館では週3回定期的にスマホで図書館活用講座を開催しています。

福祉サービスについては、先ほど南部図書館、薬科図書館、蒲原図書館から説明をしておりますので割愛して、資料の2ページに移ります。多言語・やさしい日本語サービスの充実では、静岡市内で人口が多い英語・中国語・韓国語・フランス語・ロシア語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・フィリピン語・ミャンマー語の10か国語での図書館カードの申込書と利用案内を作成しています。

最後に五感を刺激するイベントについては、特に多くの取組をしていますが、今回は参考にチラシを絞って添付しています。資料は6ページからになります。御幸町図書館で

こども司書体験、健康寿命を延ばす講座では、先に御幸町図書館と南部図書館から紹介しました資料7ページの「ライフキャリア・レジリエンス」と「しずおかし電子図書館をつかって「みんなで音読タイム」」。体験格差の解消では、資料8ページの蒲原図書館「夏休みこども科学あそび教室「野の花万華鏡をつくろう」各世代に向けたイベントとしては、資料9ページの藁科図書館「ナイトライブラリー図書館に泊まろう」、資料10ページの長田図書館「徳川家康と駿府」、複数館で「大人向けのおはなし会」を実施しています。

図書館がひとりひとりの豊かな生活を実現する空間となるため、今後も一つずつ着実に取り組みを進めていきます。

なお、図書館サービスビジョンについては、今後も定期的に進捗状況を職員間で確認をしながら見直しをしていきます。説明は以上です。

豊田副会長 それでは、委員の皆様からのご意見、ご質問などお願いいたします。私から質問させていただきたいと思いますが、中身ではなくて大枠の話ですけれども、一つはこの図書館サービスビジョンというのは、どのように使うというか、市民に向けて知らせていくようなものなのか、そうではなくて図書館の中で使っていくものなのかということ、それと絡めて「200人で共通認識を」ということをおっしゃっていましたけれども、それはどのようにやっていくおつもりなのか、その2点をお聞きしたいと思います。

事務局（副館長） 誰に向けてというご質問ですが、図書館職員がこれからどのようにサービスを提供していくかという視点で作っておりますので、職員向けです。周知の仕方については館長会議や回覧、検討委員のメンバーを通じて職員に周知をしていく予定であります。実施した結果については、また職員間で共有をして、意見を求めてという形でやっていく予定です。

豊田副会長 今、図書館を巡る環境も急激に変化してきておりますので、内部で使われるものであるにしても、多分サービスビジョンというのはその時々に変化が求められるというか修正もしていかなければいけないかと思いますが、そういったこともその中で議論されているというようなことなのかという、その辺のところをちょっと知りたい。それから、今回こういう形で協議会に出していただきましたけれども、どういうふうに変えていくとか、あるいはこんなふうになっていますよというところについて、協議会で随時その話をしていただく、あるいはその議論をさせていただくというようなことをお考えなのかどうか、そのあたりを確認させてください。

事務局（副館長） サービス内容はその時々の方市民ニーズに合わせて変えていかなければならないものだと思っています。アンテナを高くして、その辺はどんどん取り入れて変化していかなければいけないと考えています。

内容を変更するときには、協議会に随時報告をさせていただきます。

豊田副会長 このように出していただきましたので、逆に言えば、今やっているサービスというのはこのサービスビジョンとどのように関係しているのですかと、あるいはサービスビジョンの項目を進めていくうえでどうなのかというような質問が、今後も委員が変わっても協議会の中で出てくるのかなというふうにも思うし、出てこなければ、協議会も役割を十分も果たしていないとも思うんですけど、そういったことも想定しておられるという理解でよろしいですかね。

事務局（副館長） はい。

豊田副会長 ありがとうございます。では委員の皆さんお願いいたします。

宗野委員 ナイトLibraryが面白いと前から思っていたのですが、大人だけのグループは参加できないので参加しませんでした。が、実際に参加した人たちがどんな感じで夜過ごしたのか具体的に教えてほしいのと、実際に過ごした人たちの家族の感想みたいなものを聞いてあれば、聞いてみたいと思います。

事務局（薬科図書館長） こちらは元々薬科図書館のリニューアルオープンの記念イベントとして行ったものですが、大変好評でしたので、今年度は子ども読書の日の記念イベントとして参加者を小学生から18歳までのお子さんのいるご家族またはグループに限定して開催しました。大人だけの方はお申込みいただけなくて大変申し訳なかったのですが、今回も多くの申し込みをいただきました。午後8時からの開催で、「皆さんは何でも持ってきてくださっていいですよ、どうぞ図書館の中で寝袋を広げてもいいし、お布団敷いてもいいですよ」と言いましたら、どのご家庭も大体キャンプ道具のようなテントを一式持っていらっしやって、早い時間から下で待ち構えてくださって、とても楽しみにしていただけている様子が伺えました。

開催の様子ですが、まず館内でそれぞれグループごとの陣地、読書基地を作っていたいて、好きなだけ館内で本を読んでくださいというものです。防犯の観点から一晩中電気を暗くすることはできませんので、眠くなったらアイマスクとか、ご自身でちょっと考えてくださいとお伝えしていましたが、結果的には一晩中起きていらっしやった方が多かつ

たです。前回のときもずっと本を読んでいるお子さんを見て、お母さんが「この子生まれて初めて徹夜しました」と仰っていたご家族があったのですが、朝の7時の解散の時まで、最後の最後まで皆さん読んでいらっしゃいました。最後に「本を借りていってくださることもできますよ」と申し上げると、どのご家庭も「じゃあ」と言って、一晩読んだのにまだ持っていくのですかという感じでしたが、すごく楽しんでいただけた様子が伺えました。藁科は窓の外の風景もいいですし、リニューアルして環境としてはすごくいいところです。今回はお子さんのいるご家族向けにしましたけれど、次は大人のソロ参加募集にしようとかか検討しています。これからもこの泊れる図書館というのを特色として打ち出していきたいと思います

豊田副会長 他の委員さんからいかがでしょうか。

堀川委員 2年間やってきて、こういうある程度の方向性を出してくれたのは、非常に良かったんじゃないかなと思っています。説明にもあったように、多分こういうのを作っても、時代とともに変わってくることがあると思うんですよ。その時々状況に合った形でと思うのと、やはり先ほど説明があったように、これを200人いる職員全てが共通の認識を持って、同じ方向性を持ってこれに当たっていくということが一番肝だと思うので、その辺のところを考えながら、図書館の運営とか経営についてやってほしいなと思っております。ありがとうございました。

事務局（副館長） 200名という大所帯で、各館の考え方もありますが、一致団結して、方向を決めて今後もサービスを提供していけるようにしたいと思います。

豊田副会長 このサービスビジョンはすごく難しい言葉が出ていたり、あるいはいろんな解釈ができて、そんな言葉がたくさん入っているので、これを使って共通認識を作ることは大変なことだと思うし、またそれをやっていく中で、それ自体最高の研修にもなるのかなあとと思います。そこはぜひしっかりやっていただきたいし、会長や私も協力できる場所はあると思いますので、よろしくお願いします。

清委員 サービスビジョンというのはその時々状況によって変えていくという話でしたけど、まず「図書館の自由に関する宣言」や「静岡市立図書館の使命、目的とサービス方針」は普遍的なものというか、図書館として目指すものを公開しているので、ぜひこちらにも心においてほしいと思います。

今、静岡市の第4次総合計画のパブリックコメントを募集しているのですが、中身を見ると、市長が変わって多分見直しの必要性が出てきたということらしいのですが、大まかに言うと、4次総がこれまでの政策集型より成果志向型に変わるという大きな見直しの必要性が出てきました。

教育の中で、私がちょっと心配だと思ったのは、教育委員会から市長部局への権限を移すという項目があったので、具体的には書いてなかったのですが、ということなのかなあと。私も総合計画を見てもわからない部分がたくさんあったので、教育委員会の中のスポーツに関する、文化に関することが市長部局へ権限を委譲するというのがちょっと気になったんですけど、もしそういう大きな動きがある場合には、ぜひこの協議会で諮っていただきたいです。私が図書館協議会を傍聴するようになったのは、随分前の2005年にいつも利用している西奈図書館に指定管理者を導入するということになってびっくりして、その時から傍聴するようになって、興味があったんですが、そういうふうに動きがあったときには、ぜひこの協議会で諮っていただきたいと思います。内部のサービスビジョンというのは確かにプロジェクトチームで作ってみるのもいいと思いますが、こういう動きがあるときには、ぜひ協議会に意見を伺ってからにしていきたいと思います。今回の会議でおしまいになる委員さんも沢山いらっしゃいますので、今後とも協議会の意見を大事にしてほしいと思います。

豊田副会長 このことについて図書館の方で何かありますでしょうか。

事務局（教育局次長） どの時点の資料をご覧になっているのかわからなかったのですが、文化とスポーツに関して市長部局へという話は、元々文化とスポーツに関しては、補助執行という言い方をされていて、本来教育委員会の事務ではあるんですけども、市長部局でやっていました。それを今年4月から見直しをして、市長部局にお願いするような形に変えたということがそこに書いてある話だと思います。

図書館はどうかということですけども、図書館は引き続き教育委員会で所管していきます。もし市長部局に行くようなことがあれば、ぜひこの場でお諮りをいたします。

清委員 安心しました。私たちの会もぜひ教育委員会の直営で図書館を運営してほしいと願っています。

豊田副館長 それではそろそろ時間も迫ってまいりましたので、この議題につきましては終わらせていただきたいのですがよろしいでしょうか。もし何か質問などまだあるようでしたら、書いていただいて、事務局の方へご提出ということでよろしいでしょうか。

以上をもちまして、議事の方を終わらせていただきます議事進行にご協力いただきありがとうございました。

8 閉会